

## 無農薬・有機肥料で!

私たちは、自分たちの手でお米を作りたい!と話し合い、できることは自分たちで行ってみることにしました。田おこし、田植え、草取り、畦の草刈り、収穫、脱穀、もみすり…想像以上の重労働に昔の人々の苦勞と大変さを実感しました。10月の斐太南小祭りでの米販売では、用意した分がすぐに完売することができ、収穫の喜びも体験できました。



## 米を生かすこと

近年日本の食料自給率が40%まで急激に低下してきていることを学びました。輸入に頼らざるを得ないこの状況で、もし輸入がストップしてしまったら…私たちにできることは何なのか、この妙高市だからできることは何なのか、みんなで考えました。

妙高市と言えば、豊かな自然と、おいしいお米です。私たちが願いを込めて収穫したお米を活用し、その可能性を探っています。

収穫したお米を、よりおいしくいただくためには、家族や地域の方々に聞きながら、調査します。妙高市の大自然の恵みで育ったお米はきっとおいしいはず!

米よりたくさんできるワラ。イネのすべてを利用してきた先人の知恵。バイオエタノール。素材として、新しい活用法、ワラの可能性を探ります。



米粉は、奈良時代の遣唐使が昔の中国の文化を日本に伝えた中で、小麦粉や米粉で菓子を作ったことが起源と言われています。それから現代まで、米粉は人々の間に和菓子を中心に親しまれてきました。私たちが収穫した米を米粉に変え、ご飯として食べる以外の方法で活用しようと考えています。

## 斐太南小 米こめQuiz

- ① 私たちの新潟県の食料自給率は何%でしょうか? (H19年度概算値: 加り-へ-ス)  
A 79%                      B 89%                      C 99%
- ② 米粉は大きく分けて、加熱してから米にする「アルファ型」と、そのまま粉にする「〇〇型」の2種類がある。さて何型でしょうか?  
A ジーター型              B ベーター型              C バーター型